

平成12年度 第3回収蔵文書展

知事への手紙

明治編

五 松方正義手紙

(仏公使接遇謝礼)

士一乃自筆
 編取後以之自注
 通事如左陳上
 股伴心居一行
 其知小多可遊覽
 一乃自筆
 官小倉見 接待
 夜事 都合全快
 樂の極を分り序
 一乃自筆
 本日 股伴心居使
 一乃自筆
 一乃自筆
 一乃自筆

九 井上馨手紙

(下リク一仏公使旅行接遇依頼)

佛國特命全權公使
 下リク一氏今般手縣
 下然春三幸必及之通傳
 一乃自筆
 郡區役所管建於之
 一乃自筆
 人馬高物之流求有之
 一乃自筆
 切世話許 諸事幸
 一乃自筆
 巡視署受之
 一乃自筆
 一乃自筆
 一乃自筆
 一乃自筆
 一乃自筆

平成13年1月30日(火)～3月25日(日)

埼玉県立文書館

■ 開催にあたって

当館では、県が作成又は収受した行政文書を取蔵しており、郷土の歴史を語るこうした行政文書を順次紹介しておりますが、今回はその中から、明治期の県令・知事に宛てられた手紙20通を紹介いたします。

明治政府は、中央集権国家体制の確立を目指し、各府県に官選の知事を配して、地方への政策の浸透を図りました。知事は、中央政府における出先機関の役割を持つ一方で、地方の人々の意見を聞く立場にあり、知事のもとには、政府要人、県会議員、地方有力者などから多くの手紙が寄せられました。

埼玉県行政文書として保存されてきた手紙は、残念ながらその数は多くはありませんが、松方正義・井上馨・徳大寺実則を初めとする要人らの貴重な手紙も含まれています。また、第2代白根多助県令の御子孫より当館に御寄贈いただいた「白根家文書」には、初期の埼玉県政をうかがわせる手紙が多く残されており、この手紙についても併せて紹介いたします。

個性あふれる書体で認められた手紙を、大型活字の解説文を参考に御観覧いただければと思います。また、これを機会に、近代埼玉県の歴史に関心を持っていただければ幸いです。

最後に、本展示を開催するにあたり、貴重な資料を提供していただきました白根春彦氏、また、御協力をいただいた関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成13年1月

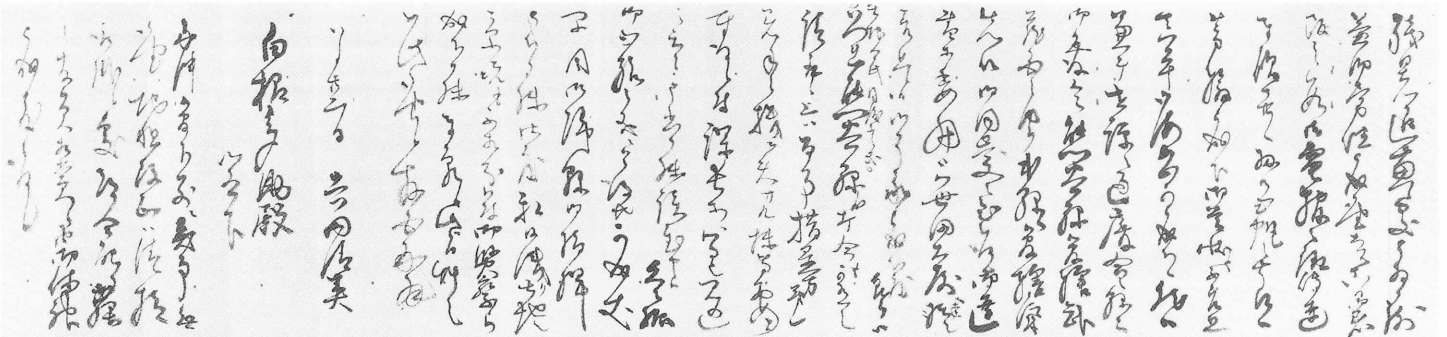
埼玉県立文書館

I 第2代県令 白根 多助への手紙



第2代県令 白根 多助（在任期間：明治6年12月～15年3月）

白根多助（しらね たすけ 文政2-明治15）は長州藩（山口県）出身。明治4年11月の埼玉県設置時に権参事となり、初代野村盛秀県令が病没した後の第2代県令となる。没するまでの8年余に及ぶ在任中、常に民意を尊重しながら草創期の県政の基礎を築き、後々まで「徳望の県令」と慕われた。松方正義内務卿など政府の要人や、県内から登用した職員からの手紙が多く残されている。



一 吉田清英手紙
（熊谷県廢県に付知事帰県依頼）

残署退兼候処、被為御捕
益御勇健被成御座、去ル十八日御着
阪之段、御電報之趣伝達
奉欣喜候、扱御出帆之節ハ
芳翰被成下、御答状も不差上、
真平御海起可被成下候、然ハ
兼テ世評之通、麿合之県々
御発令、熊谷県管轄武
藏国之内ヲ本県へ管轄被仰付、
先以御同慶之至被存候、御達
書等委細ハ笹田大属へ達（托）シ
差上候間、御了承被成下度、就而ハ
土地人民引渡等之義
いづれ熊谷県より打合も可有之、
請取候上ハ百事措置方第一
着手之機ヲ失サル様專要ト
奉存候付、課長等へ篤と見込
之云々申出候様談置申候、久々振
御出張之義ニハ候得共、可成丈
早目御帰県御指揮
被下候様仕度、私日浅ク、土地之
景況も不相分候付、御賢察被
成下候様奉願候、此旨艸々
如此御座候、敬白再拜
八月廿二日 吉田清英
白根多助殿
閣下
再伸、管下別ニ異事無
御座、地租改正ハ清檢
取掛候処、都合能ク出張
之官員相賞候由、御休神
被成度奉存候

二 福地源一郎手紙 (新聞売込)

福地源一郎手紙 (新聞売込)
明台益御清適奉恐賀候、
叔劣生儀も不相替営業二
勉強罷在、追々維持之目
的も相立候二付、更ニ奮発いたし度
心掛候得とも、兎角二世事ハ
意之如く二被行さるにハ随分
困却罷在候、此度弊社の
手代鎗田徳之助と申もの
掛ケ廻りとして、尊票下へも差出候
間、自然相願候筋も御座候ハ、
可然御眷顧奉希候、
儲尊票下へも致々と弊社の
新聞売広候得とも、いまだ十分にハ
行届不申候、学校或ハ区務所之
如きも実ハ寥々たるものにて、蓋し
新聞購求之分八十の一二に過ぎ
申間敷と被思候、右二付何とぞ
尊票下之区務所及び学校へハ
一ヶ所一葉つ、之売込を奉願度、
是ハ令公の御諭達ならてハ
迎も不被行義二付、御賢考之上
可然と被思召候ハ、何卒御一声
之御發令を奉願度、その手数
等ハ都て右之徳之助なるもの
相心得居候間、其筋の属官へ
引合候様御指揮被下候ハ、猶更
好都合ニ御座候、
か、る細事にて
明台を奉勞候ハ甚以恐縮
之次第奉存候、営業上之こと
無摺情実洵々御洞
察を奉願候而已

爾来打絶御疎闊相過候
得とも
明台益御清適奉恐賀候、
叔劣生儀も不相替営業二
勉強罷在、追々維持之目
的も相立候二付、更ニ奮発いたし度
心掛候得とも、兎角二世事ハ
意之如く二被行さるにハ随分
困却罷在候、此度弊社の
手代鎗田徳之助と申もの
掛ケ廻りとして、尊票下へも差出候
間、自然相願候筋も御座候ハ、
可然御眷顧奉希候、
儲尊票下へも致々と弊社の
新聞売広候得とも、いまだ十分にハ
行届不申候、学校或ハ区務所之
如きも実ハ寥々たるものにて、蓋し
新聞購求之分八十の一二に過ぎ
申間敷と被思候、右二付何とぞ
尊票下之区務所及び学校へハ
一ヶ所一葉つ、之売込を奉願度、
是ハ令公の御諭達ならてハ
迎も不被行義二付、御賢考之上
可然と被思召候ハ、何卒御一声
之御發令を奉願度、その手数
等ハ都て右之徳之助なるもの
相心得居候間、其筋の属官へ
引合候様御指揮被下候ハ、猶更
好都合ニ御座候、
か、る細事にて
明台を奉勞候ハ甚以恐縮
之次第奉存候、営業上之こと
無摺情実洵々御洞
察を奉願候而已
多罪頓首 百拜
十一月十六日夜

三 浜尾新手紙 (学生就職依頼)

益御清適御奉職奉敬賀候、
然者本年本部二於て法学・化学・
工学科を卒業せし者数名有之、
其内化学生一名貴県ニ御採用之
途有之間敷哉、其曾而本科に
在り、専修せし科目ハ無機有機
化学・検定定量分析・製造化学・
冶金学・物理学并ニ金石地質学
大意等二して、其予科ニ在りて普
通の科目を修め居候間、中学又ハ
師範学校の教員とし、理化学等
其実験とも二授業為致候ハ、教育
上御裨益可有之、又兼而勸業課
員とし普く県下の物産等を
分析為致候ハ、勸業上ニも御便益
可有之愚案仕候、何卒御賢慮
之上御用途之有無御一報被
下度候、敬具

東京大学法理文三学部総理
明治十一年九月廿一日 浜尾新

埼玉県令 白根多助殿

同書記官 吉田清英殿

四 川島樺坪手紙 (時計購入願)

翰教捧読、時下小春之候、愈
御清穆奉恭賀候、小生無事
罷在候、御蠲慮可被下候、陳者御出
京以來、戸長役場費論及地
租通欠之両条御心遣被成下候趣
遠察仕候、尚此上為國家
毎々御尽力奉希候、
嘗而御噂申上候時計之儀、
他ニ売物御購求之思召二付、
從來御所蔵之分云々御諒与
可相成候趣、大早之雲雨の如く、
御厚志之段、不知所謝候、就而者
右御所蔵之分御払下奉願候、
且代金之儀今月者囊中之
都合不宜候間、来月差上候様
致度、甚以自由之至り二御座候
得とも、御允可被成下度、併而
奉願候、右御答如此二御座候、時下
霜寒千万御白玉奉祈候、
不宣

十一月廿一日 川島樺坪

白根明府殿

白根明府殿

追啓、満庁中替事無之、
公務も稍清閑ニ御座候、且管下
一般今年之豊作二而、芝居・
角力・人寄等所々二有之、
民心平穩太平之氣象
相見へ申候、此際二兼而御心遣被
遊候救荒予備之法相設候ハ、
管民万世之計ニ可有之奉存候、
頓首

十一月廿一日 川島樺坪

白根明府殿

同書記官 吉田清英殿

甚難難渡、亦殊大掛

病福力、或心外、

此等時、或心外、

高崎士族、其同、

煽動、紛議、起、

心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

或心外、或心外、

六 楯取素手紙

(高崎士族動向)

甚難難渡候處、弥御捕

御方福奉賀候、近來御

病症如何二候哉、心外之

御無沙汰背本意二候、此

節御聞及二可相成、管下

高崎士族共同取商人

ヲ煽動、紛議ヲ起シ、格

別心配二涉ル程之事も

無之候得共、何分聞分無

之ニハ込(困力)リ入申候、

裁表杉

明治迄御懸合一条、如何

相成候哉、御病中口気や

かま數候得ハ、已ニ其發言

ヲ御煩ハセ申候以上ハ、小生より

直接ニ文通仕候様致度、

必ス深ク御配意被下間數候、

県下赤城牧社ニ而製候粉

牛乳六瓶、馬車便呈上、

御笑留可被下候、生乳御

用之際、乾乳ヲ呈候ハ不都

合ニ候得共、陸軍病院杯

乳質之精良ナル由ヲ以、毎

々需求二預リ候故差出申候、

御試可被成候、時下方々

御大切、御養生奉專務候、

先ハ御見廻迄、草々如此候、

頓首

八月九日 素彦

白根様 侍史

二白、奥方様ニも宜敷御

鶴声可被下候、以上

五 松方正義手紙

(仏公使接遇謝礼)

七 小泉寛則手紙

(日本鉄道株券募集)

芳翰沐手謹読仕候、

尊台益御清穆御鞅掌

奉拵舞候、陳者日本鉄道会社

創立發起株主募集之儀、過日同僚

御召喚会同之砌、御内論之主義ヲ以

歸郡以降、乍不及百方勸奨候得共、

当郡者曾テ如御洞察他郡ニ比

準候而者蒙農商ト云ツ可者モ至ツテ

僅々、為メニ応募者四名ニ止マリ甚

汗顔之至ニ御座候處、豈因シ、当

地御派遣諸井興久氏歸県復命ニ

因ツテ、卑官該件勸誘着手順序

及演說等、懇厚簡易無間然

云々、頗ル御懇篤之御賞詞ヲ辱シ、

却ツテ感佩恐縮仕候、實ニ該拳ハ

皇国未曾有之一大美拳、況ヤ

御管下者第一着手線路里程之

過半ヲ占メ候事故、株金ノ募集他

県ニ一歩モ不讓様致度丹心

二而、日夜苦慮罷有候、此上半株

募集ニ於而深く干渉ニ失セス

シテ、続々加入申込出来候様仕度卜

目下其計畫中ニ御座候、先者

右御奉答旁、如斯趨々頓首

五月十六日 小泉寛則拜

白根令公

閣下

善集之候、御下、先ハ不

シテ、續々加入申込出来候様仕度

目下其計畫中、御座候、先者

右御奉答旁、如斯趨々頓首

五月十六日 小泉寛則拜

白根令公

閣下

九 井上馨手紙

(トリクー仏公使 旅行接遇依頼)

旅行接遇依頼

表紙 ←

第3代県令・知事 吉田 清英 (在任期間：明治15年3月～22年12月)

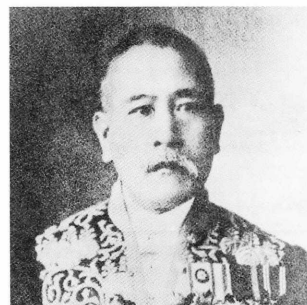
吉田清英(よしだ きよひで 天保11-大正7)は薩摩藩(鹿児島県)出身。明治9年埼玉県権参事に任ぜられ、白根を補佐する。明治15年白根の没後埼玉県令となり、18年の官制改革で知事となる。秩父事件や水害、コレラの流行、政府の方針を巡る県会との対立など、困難な局面も多かったが、勸業に意を用い、蚕糸業の振興に力を注いだ。井上馨外務卿からの、仏公使の来県に関する手紙が残されている。



II 第3代県令・知事 吉田 清英への手紙

第4代知事 小松原 英太郎（在任期間：明治22年12月～24年4月）

小松原英太郎（こまつばら えいたろう 嘉永5-大正8）は岡山藩（岡山県）出身。新聞編集長を経て外務省入りしドイツで勤務、明治22年に埼玉県知事となる。後に、貴族員議員・文部大臣・枢密顧問官に就任する。知事就任時における最大の課題であった県庁の位置について、浦和とする上申を提出し、その結果、明治23年9月勅令をもって正式に浦和と決定された。明治23年の大水害の復興にも尽力したが、その時の内務省土木局次長からの手紙などが残されている。



抄録 森山茂手紙
富山県知事着任挨拶
拝啓、炎暑之候、益々
御清康奉賀候、陳ハ小生
過般本県知事ニ転
任、去ル十二日着県
致候、就テハル後諸
事被懸尊慮度
希望ニ御座候、先ハ御
挨拶旁、得貴意
度、如此御座候
勿々敬具
廿三年八月十六日
森山富山県知事
小松原埼玉県知事殿

鈴木敏行手紙
（菱蚕巡覽願）
謹啓仕候、曾テ御巡視
之砌、部内菱蚕家
飼育上実地御点検
被成下候趣、就而ハ其
季節見計可申上
旨被仰聞、即本月廿
四日頃御実檢相成可然
与存候間、御多忙中二者
御座候得共、御巡覽被下
候得者、将来当業諸
奨励ニも相成候間、是非
御巡視被成下度、此段奉
願候、拜具
五月十七日 鈴木敏行拜
小松原英太郎殿
侍史

十一 森山茂手紙

（富山県知事着任挨拶）

抄録 大塚謙三郎手紙
（河川改修）
貴翰拝読、爾来益
御清穆奉恭賀候、
然ハ御尋越之趣大休
八別紙年度割表ニ
而御承知被下度、尤右
之外直轄河川ニ対
スル利害関係ヲ有スル
国郡名ハ、先ツ改修
区域沿川ノ土地ト見做
シ可然、詳密ナル関係
ノ点、及其大小等ニ至而ハ、
掛技師不在ニ付到底
沿川各郡ヲ拳入御
覽候等ニ御座候得共、
何分手数計ニ而、夫丈
之効能も無之儀ニ付、是ハ
本年一月十七日千九百六十
三号官報ニ土地収
用ノ廉ニ而各川改修区
域相見候付、是ニ而一

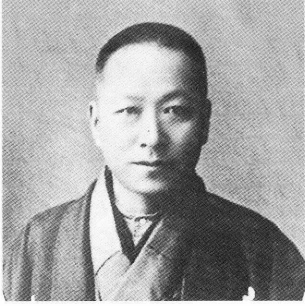
貴翰拝読、爾来益御清穆奉恭賀候、然ハ御尋越之趣大休八別紙年度割表ニ而御承知被下度、尤右之外直轄河川ニ対スル利害関係ヲ有スル国郡名ハ、先ツ改修区域沿川ノ土地ト見做シ可然、詳密ナル関係ノ点、及其大小等ニ至而ハ、掛技師不在ニ付到底沿川各郡ヲ拳入御覽候等ニ御座候得共、何分手数計ニ而、夫丈之効能も無之儀ニ付、是ハ本年一月十七日千九百六十号官報ニ土地収用ノ廉ニ而各川改修区域相見候付、是ニ而一

十二 大塚謙三郎手紙

（河川改修）

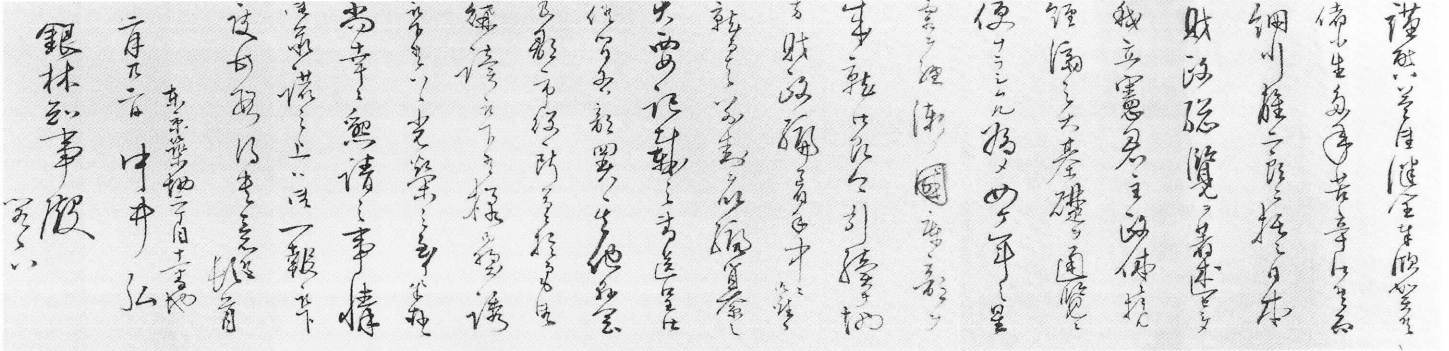
覽、尚全国地図と御参照相成候ハ、沿川各郡ハ相分り可申と奉存候、其内反別地価等ハ局内ニ調査無之、差向申上兼候事ニ御座候、十四大川之内八ヶ川ハ継続事業と相成候見込之分、他六ヶ川ハ最初一旦計画ハ出来候得共、即今中止相成居、継続費と不見做分ニ有之候、六川之分モ目論見総額大書抜供御参考申候、是ハ年度割も地方負担額も相立不居者ニ御座候、先ハ不取敢貴酬迄如此御座候、尚御尋ニ応シ相分り候丈ハ可申上候、謙三郎頓首十一月六日
小松原様 御侍史下

貴翰拝読、爾来益御清穆奉恭賀候、然ハ御尋越之趣大休八別紙年度割表ニ而御承知被下度、尤右之外直轄河川ニ対スル利害関係ヲ有スル国郡名ハ、先ツ改修区域沿川ノ土地ト見做シ可然、詳密ナル関係ノ点、及其大小等ニ至而ハ、掛技師不在ニ付到底沿川各郡ヲ拳入御覽候等ニ御座候得共、何分手数計ニ而、夫丈之効能も無之儀ニ付、是ハ本年一月十七日千九百六十号官報ニ土地収用ノ廉ニ而各川改修区域相見候付、是ニ而一



第6代知事 銀林 綱男（在任期間：明治25年12月～27年1月）

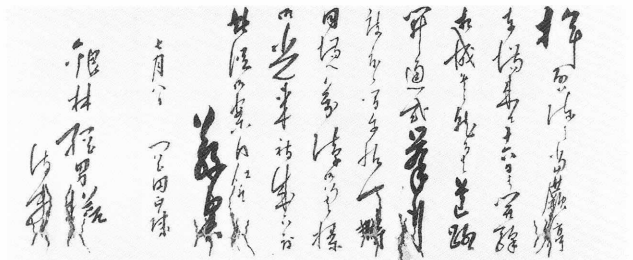
銀林綱男（ぎんばやし つなお 弘化1 - 明治38）は越後国（新潟県）出身。新潟県属から東京府に転じ、長く地方事務を担う。その敏腕を買われ、明治25年、県会の不信任決議で辞めた第5代久保田知事に代わり、「難治の県」と言われていた埼玉県の知事となる。銀林は党派に偏らず、地元と協調しながら県政を進めた。在任1年余で非職となり、以後実業界で活躍した。東京府知事の富田鎮之助からの手紙などが残されている。



十三 中井弘手紙

（圖書幹旋依頼）

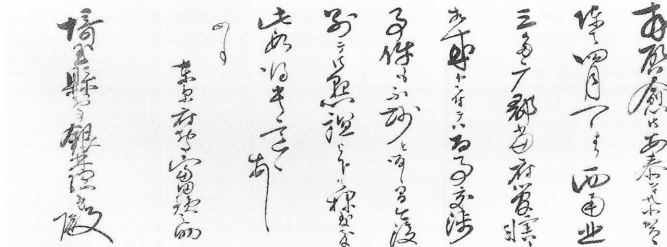
謹啓、益御健全奉欣賀候、
 儲小生多年苦辛仕候而
 細川雄二郎二托シ、日本
 財政総覽ヲ著述セシメ、
 我立憲君主政体ニ於ル
 經濟之大基礎ヲ通覽ニ
 便ナラシムル為メ、四ヶ年之星
 霜ヲ経、漸ク国庫部ヲ
 成就仕、即今引統キ地
 方財政編着手中ニ御座候、
 就而者別封ヲ以編纂之
 大要記載之書送呈仕
 候間、各部著其他県会
 及郡市役所等ニ於而も、御
 購読被下候様御奨誘
 被下候ハ、光栄之至リニ奉存候、
 尚幸ニ懇請之事情
 御承諾之上ハ、御一報被下
 度、此段得貴意候、頓首
 東京築地二丁目十一番地
 二月廿二日
 銀林知事殿
 閣下
 中井弘



十五 岡田正康手紙

（蔵停車場道路開通式招待）

拝啓、陳者、当蔵停
 車場来ル十六日より開
 相成候ニ就而者、道路
 開通式挙行
 致度候間、午后一時
 同場へ萬障御差探
 御光来被成下度、
 此段御案内仕候
 敬具
 七月八日 岡田正康
 銀林綱男様
 侍史



十四 富田鎮之助手紙

（多摩郡管轄換）

拝啓、愈御安泰奉恭賀候、
 陳者、四月一日より西南北
 三多摩郡当府管轄ト
 相成候ニ付テハ、百事交渉
 事件も不尠ト存候間、今後
 別テ御懇誼被下候様致度、
 此段得貴意候
 頓首
 四月
 東京府知事富田鎮之助
 埼玉縣知事銀林綱男殿

第7代知事 千家 尊福（在任期間：明治27年1月～30年4月）

千家尊福（せんげ たかとも 弘化2-大正7）は出雲大社（島根県）の国造（宮司）で男爵。文部省普通学務局長から明治27年に埼玉県知事となり、温厚の君子人として県民から尊敬された。同年8月には日清戦争が勃発し、戦費調達のため、県の事業は縮小せざるを得なかったが、3年2か月の在任中に、懸案であった中学校の設置、郡の統合、測候所の開設、農会の設立などを実現した。徳大寺実則・渡辺千秋・牧野伸顕など、政府要人からの手紙が多く残されている。



御啓、陳ハ三月九日
宮中御大典ニ付献上
物之儀、貴県尋常師範
学校職員一同賛成之趣、
且金員送付方御問合
之儀了承、右ハ本省会計課
永井久一郎へ向ケ御送
金被下度、此段御報
申上候、拜具、
二月廿日
牧野伸顕
千家埼玉県知事殿

十六 牧野伸顕手紙
（御大典に付師範学校献上品）
拜啓、陳ハ三月九日
宮中御大典ニ付献上
物之儀、貴県尋常師範
学校職員一同賛成之趣、
且金員送付方御問合
之儀了承、右ハ本省会計課
永井久一郎へ向ケ御送
金被下度、此段御報
申上候、拜具、
二月廿日
牧野伸顕
千家埼玉県知事殿

御啓、然ハ御談話仕度
義御座候間、来十三日
午後五時、内山下町官舎へ
御光来被下度相願候、
尤粗末の晩餐差上候
間、御承知可被下候、為其、
匆匆頓首
十二月十一日 靖
千家知府侍史
尚々明日中二諾否の御
報相煩候也

十八 野村靖手紙
（晩餐招待）
拜啓、然ハ御談話仕度
義御座候間、来十三日
午後五時、内山下町官舎へ
御光来被下度相願候、
尤粗末の晩餐差上候
間、御承知可被下候、為其、
匆匆頓首
十二月十一日 靖
千家知府侍史
尚々明日中二諾否の御
報相煩候也

御啓、時下向署
之候、益御健
勝奉賀候、陳ハ一昨
夜下り終列車
御管内本庄停
車場接近ノ場所
にて脱線之砌、
小生義も乗車致
居リ、貴県警察
官ニ厚ク保護
ヲ受ケ、深謝之至
リ奉存候、先ハ不取敢
右御挨拶
申上度、
草々頓首
六月十五日
中村元雄
侍曹

十七 中村元雄手紙
（本庄脱線事故）
拜啓、時下向署
之候、益御健
勝奉賀候、陳ハ一昨
夜下り終列車
御管内本庄停
車場接近ノ場所
にて脱線之砌、
小生義も乗車致
居リ、貴県警察
官ニ厚ク保護
ヲ受ケ、深謝之至
リ奉存候、先ハ不取敢
右御挨拶
申上度、
草々頓首
六月十五日
中村元雄
侍曹

御事如候旨候得
御事如候旨候得
御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

御事如候旨候得

千代清和殿

十九 渡辺千秋手紙

(京都遷都千百年記念祭招待)

拜啓、春和之候、益御清祥
奉林賀候、陳ハ来ル三十日当京
都市ニ於テ、
桓武天皇奠都千百年
記念祭執行致候二付、嚮ニ
御案内申上候通り、御縁合
御来車之程希望致候、就
而者、御承知之通り、已ニ博
覧会も開設相成り、多数
来觀人有之頗ル盛況ニ
御座候間、自然御旅宿等
差支候而者不都合ニ付、御出
発前電信等ニ而、其日時
御一報被下候ハ、人衆輻湊
之央、十分二八行届兼候得
共、可及丈準備為致置候
間、右御了承被下度、此段
得貴意置候、草々敬具

明治廿八年四月五日

渡辺京都府知事

千家崎玉県知事殿

足尾銅山被毒被害
近頃容易ナラサル様相聞
候処、右ハ客年洪水ノ為
其毒害ノ広ク蔓延シタル
二起因シ、頓ニ物議ヲ醸生
スルニ至リタルモノナルヤ、又ハ是ヨ
リ先キ明治二十五七八年ノ
頃ヨリ、既ニ其害毒ノ恐ルヘキ
ヲ發見シタルコトアリシヤ、果シテ
數年來多少ノ被害ヲ
其都度主務省等へ公報
若クハ内申ニテモ相成タルコ
ト、被存候、乃チ有之候ハ、
其都度ノ状況及事情
等確實ノ処承り度候
事、

二十 徳大寺實則手紙

(足尾鉍毒事件照会)

足尾銅山鉍毒ノ被害

近頃容易ナラサル様相聞
候処、右ハ客年洪水ノ為
其毒害ノ広ク蔓延シタル
二起因シ、頓ニ物議ヲ醸生
スルニ至リタルモノナルヤ、又ハ是ヨ
リ先キ明治二十五七八年ノ
頃ヨリ、既ニ其害毒ノ恐ルヘキ
ヲ發見シタルコトアリシヤ、果シテ
數年來多少ノ被害ヲ
其都度主務省等へ公報
若クハ内申ニテモ相成タルコ
ト、被存候、乃チ有之候ハ、
其都度ノ状況及事情
等確實ノ処承り度候
事、

又森林溢伐ノ為、山嶽崩
壊シ、土砂流溢シテ川底
埋マリ、又ハ寄洲等ヲ生シ、決
水流暢ナラサルニ至リシガ為、
堤防欠壞沈澱セル鉍毒
洪水ト共ニ汎溢シ以テ田

島ヲ荒廢スル等其被害
甚シキニ及ビタルハ、要スルニ森
林溢伐ニ起因シタルノ様
相聞、御座候事、實則
先キ、主務省等、其議
決中報ニ「漏レテ」法ヲ講
ズルニ資セシメテ、被存候
亦確實ノ処承り度候
事、

右雨條内密ヲ以テ及御問
合候間、毫毛無腹藏詳
細ノ事實至急御回報相
成度、此段及御照会候也

明治三十年四月七日

徳大寺内大臣

千家崎玉県知事殿

島ヲ荒廢スル等其被害
甚シキニ及ビタルハ、要スルニ森
林溢伐ニ起因シタルノ様
相聞へ候処、事實果シテ
然ルヤ、實際然ルニ於テハ是
ヨリ先キ主務省等へ其議
御申報匡済之法ヲ講
ズルニ資セラレシコト、被存候、是
亦確實ノ処承り度候
事、

右雨條内密ヲ以テ及御問
合候間、毫毛無腹藏詳
細ノ事實至急御回報相
成度、此段及御照会候也

明治三十年四月七日

徳大寺内大臣

千家崎玉県知事殿

I 第2代県令 白根 多助への手紙

1 吉田 清英 [県権参事] (熊谷県廃県に付知事帰県依頼)

[明治9年] 8月22日 白根家文書 35

吉田清英は明治9年6月、埼玉県権参事に赴任、後に第3代県令(後に官制改革により知事)。赴任後まもない明治9年8月、熊谷県を廃し、そのうちの武蔵国分を埼玉県の管轄とする布達が出された。

この手紙は、大阪へ出張中の白根県令に対し、自分はまだ着任後日が浅いので、早急に帰県して指揮してほしいという要請である。末尾からは、地租改正に着手していることも窺える。

2 福地 源一郎 [東京日日新聞社] (新聞売込)

[明治] 11月16日 白根家文書 484

福地源一郎(ふくち げんいちろう 天保12-明治39)は明治時代の代表的ジャーナリスト。明治7年に東京日日新聞に入社し、吾曹の名で主筆・社長として活躍。同新聞は第1面に官報を掲載したため、官庁で広く購読されたが、一方で、「御用新聞」との批判もあった。この手紙は、白根県令に対し、区務所(明治7~12年)や学校での新聞購入の依頼である。

3 浜尾 新 [東京大学学部総理] (学生就職依頼)

明治11年9月21日 白根家文書 86

浜尾新(はまお あらた 嘉永2年-大正14)は明治・大正時代の教育行政官、東京帝国大学総長を長く勤めた。元東宮侍従の浜尾実氏の祖父にあたる。

この手紙は、東京大学法理文三学部総理として、化学専攻の卒業生を、埼玉県の教員又は勸業課職員として採用してほしいという依頼である。

4 川島 樺坪 [県学務課長] (時計購入願)

明治12年11月21日 白根家文書 20

川島樺坪(かわしま ばいへい 天保6-明治24)は須加村(現・行田市)生まれ。蚕種大惣代を勤めたことから白根県令に招かれ県職員となった。明治9年学務課長に抜擢され学制の確立に貢献、『埼玉県地誌略』などの教科書も執筆した。

この手紙は、県令の金時計の購入に関するやりとりであるが、日頃の親しい交流を窺わせる。追伸から、明治12年の県内の豊作の様子も知れる。

5 松方 正義 [内務卿] (仏公使接遇謝礼)

明治14年2月4日 埼玉県行政文書 明926

松方正義(まつかた まさよし 天保6-大正13)は、薩摩藩(鹿児島県)出身。明治12年に内務卿となる。14年の政変で大隈重信に代わって参事兼大蔵卿となり、以来大蔵卿・大蔵大臣として在職すること10年に及び、24年と29年には総理大臣となる。

この手紙は、ロケット仏公使に関するもので、同公使は、明治14年、桶川・鴻巣を2度訪れ、鳥獵を楽しんだが、その際の宿泊や警備に対し寄せられた計3通の依頼状と礼状の中の1通である。

6 楫取 素彦 [群馬県令] (高崎士族動向)

[明治14年] 8月9日 白根家文書 1

楫取素彦(かとり もとひこ 文政12-大正1)は長州藩(山口県)出身。明治7年に熊谷県権令となり、引き続き9年より群馬県令となった。白根とは同じ藩校明倫館に学び、隣県の県令として、個人的にも親しく交際していた。楫取は吉田松陰の妹と結婚しており、手紙中の杉民治は松陰の兄である。

明治14年、群馬県庁が前橋に決定されたことに対し高崎士族の商人を巻き込んだ反対運動が起きた。この手紙は、その渦中にあった時期のものである。また、病気の白根に粉乳を贈っているが、明治時代牛乳は病人の薬として飲用された。

7 小泉 寛則 [児玉郡長] (日本鉄道株券募集)

[明治15年] 5月16日 白根家文書 92

小泉寛則(こいずみ ひろのり 嘉永1-明治42)は三ヶ尻村(現・熊谷市)生まれ。民権結社七名社の一人、明治12年より児玉・賀美・榛沢郡長を勤めた。

日本鉄道は明治15年9月から川口~熊谷間の建設を開始し、県では郡長を通じて地元有力者に株の引受けを要請した。この手紙は、郡内の額が他郡に比べ少ないことを恐縮したものである。

8 白根 勝二郎へ吉田 清英 (県産葡萄霊前へ献呈)

明治17年9月3日 白根家文書 62

白根多助は明治14年から体調を崩し、東京湯島梅園町の自宅で療養していたが、明治15年3月15日に現職のまま没した。この手紙は、3周忌にあたり、第3代県令となった吉田清英が、白根の息子である勝二郎(県職員、後に南埼玉郡長)に送ったものである。西洋葡萄が添えられているが、これは、浦和の県設栽培園製作場(後の農事試験場)で採れたものである。

II 第3代県令・知事 吉田 清英への手紙

9 井上 馨 [外務卿] (トリクー仏公使旅行接遇依頼)

明治15年9月1日 埼玉県行政文書 明926

井上馨(いのうえ かおる 天保6-大正4)は長州藩(山口県)出身。明治政府の要職を歴任し、明治12年から18年まで外務卿。以後、外務・農商務・内務・臨時総理・大蔵各大臣を勤めた。

明治15年9月仏公使トリクーは、美術省職員の書記官カステル、通訳ラルイーを伴って秩父三峰を訪問した。この手紙は、外務卿の井上が公使の接遇を依頼したもので、公使自身が直接持参した。一行は熊谷から秩父に入り、三峰神社に10日間宿泊。帰途、秩父神社内の大宮小学校に立ち寄って授業を参観し、教育について懇談した。その際寄付された100円を基金に、明治18年に洋風の校舎が建設された(現・秩父市立民俗博物館)。

III 第4代知事 小松原 英太郎への手紙

10 鈴木 敏行 [入間郡長] (養蚕巡覧願)

[明治23年] 5月17日 埼玉県行政文書 明985

鈴木敏行(すずき としゆき 天保10-明治41)は忍(現・行田市)生まれ。明治12年から大里、入間、北葛飾、児玉の各郡長を歴任、16年にわたり郡政に尽した。この手紙は、児玉・賀美・榛沢郡長時代のものであるが、この地域は秩父・入間郡について養蚕が盛んな地域であり、知事は以前から巡覧を希望していた。

11 森山 茂 [富山県知事] (富山県知事着任挨拶)

明治23年8月16日 埼玉県行政文書 明985

森山茂(もりやま しげる 天保13-大正8)は奈良県出身の外交官で日朝交渉を担当し、明治10年に退官。明治23年に富山県知事となり、その後貴族員議員となった。この手紙は、富山県知事へ着任の挨拶である。

12 大塚 懺三郎 [内務省土木局次長] (河川改修)

[明治23年] 11月6日 埼玉県行政文書 明1772

大塚懺三郎(おおつか けんざぶろう 嘉永2-大正13)は岩国藩(山口県)出身。法学・外国語を修め、内務書記官から土木局次長となり、後に奈良県書記官を経て、衆議院議員となった。埼玉県は明治23年8月大水害に見舞われ、10月に臨時県会を招集して復旧対策が協議されたが、この手紙は、利根川改修費の国庫支弁建議のため、土木局に国の河川改修事業について照会したものの回答である。

書と詩に堪能であった大塚の手紙は、事務的な回答でありながら達筆である。

IV 第6代知事 銀林 綱男への手紙

13 中井 弘 [貴族院議員] (図書斡旋依頼)

[明治26年] 2月22日 埼玉県行政文書 明985

中井弘(なかい ひろし 天保9-明治27)は薩摩藩(鹿児島)出身。慶応2年に渡英、明治元年政府に出仕し、同2月参内途中の英国公使パークスを襲撃から守った逸話がある。米・英公使館員を経、滋賀県令として琵琶湖疏水工事に尽力する。豪放な性格で交友が広く、外国事情に関する著書も多い。明治26年11月京都府知事となったが、翌27年に没した。

この手紙は、国家財政に関する図書の斡旋である。

14 富田 鑣之助 [東京府知事] (多摩郡管轄換)

[明治26年] 4月 埼玉県行政文書 明985

富田鑣之助(とみた てつのすけ 天保6-大正5)は仙台藩(宮城県)出身。勝海舟に師事し米国に留学、経済学を学ぶ。外交官を経て日本銀行の設立に参画、第2代日銀総裁。明治24~26年にかけて東京府知事を勤めた。

明治26年4月、それまで神奈川県に属していた西・北・南多摩の3郡が東京府に編入された。この手紙は、その際の挨拶状である。

15 岡田 正康 [蕨町長] (蕨停車場道路開通式招待)

[明治26年] 7月8日 埼玉県行政文書 明985

明治16年の日本鉄道開業以来、赤羽-浦和間に駅はなかった。町長岡田正康(おかだ まさやす)を初めとする蕨町民の熱意が実り、蕨町に駅が設けられることになり、明治26年6月駅舎が完成した。同時に、中仙道から駅まで9町(約1キロ)の停車場道が完成し、7月16日に開通式が行なわれた。この手紙は、開通式への招待状である。

V 第7代知事 千家尊福への手紙

16 牧野 伸顕 [文部次官] (御大典に付師範学校献上品)

[明治27年] 2月20日 埼玉県行政文書 明985

牧野伸顕(まきの のぶあき 文久1-昭和24)は薩摩藩(鹿児島)出身。岩倉使節団に同行して米国に留学、外務省・法制局・内閣記録局・福井・茨城県知事などを経て、明治26年から29年まで文部次官。その後、欧州公使・文部大臣・枢密顧問官・外務大臣・宮内大臣・内大臣(昭和天皇の輔弼)などを歴任。国際的視野を持った政治家として政界に重きをなした。

この手紙は、文部次官牧野が、明治天皇の大婚25年祝典にあたり、献上に賛同した師範学校職員を送金方法について知らせたものである。

17 中村 元雄 [群馬県知事] (本庄脱線事故)

[明治27年] 6月15日 埼玉県行政文書 明985

中村元雄(なかむら もとお 天保10-明治36)は豊後国(大分県)日田生まれ。日田・大分県の官員から大蔵省主税局長へ進む。明治24年から29年まで群馬県知事。その後、貴族員議員・内務次官。この手紙は、明治27年6月に本庄駅での脱線事故に遭った際、親切に接遇されたことへの礼状である。

18 野村 靖 [内務大臣] (晩餐招待)

[明治28年] 12月11日 埼玉県行政文書 明985

野村靖(のむら やすし 天保13-明治42)は長州藩(山口県)出身。岩倉使節団に随行し、外務省から神奈川県令、駅通総官、枢密顧問官を歴任。明治27年に内務大臣になるが、29年に辞任。晩年は皇女富美宮・泰宮の養育掛を勤め、鎌倉御用邸で死去。

この手紙は、内務大臣の時のもので、官舎での晩餐への招待状である。

19 渡辺 千秋 [京都府知事] (遷都千百年記念祭招待)

明治28年4月5日 埼玉県行政文書 明985

渡辺千秋(わたなべ ちあき 天保14-大正10)は信州高島藩(長野県)出身。鹿児島・滋賀県令、北海道長官を経て内務次官・貴族員議員。前出の中井弘の後を受けて、明治27年11月から28年10月まで京都府知事。その後宮内省に入り、宮内大臣となる。

この手紙は、明治28年京都で開催された遷都千百年記念祭への招待状である。記念祭では、平安京内裏大極殿を模した平安神宮が造営され、時代祭りが創始された。同時に、第4回内国勸業博覧会が開催され、市街電車も登場し、盛況であった。

20 徳大寺 実則 [内務大臣] (足尾鉍毒事件照会)

明治30年4月7日 埼玉県行政文書 明3397

徳大寺実則(とくだいじ さねつね 天保10-大正8)は明治天皇の信任を受け、その崩御に至るまで侍従長として側近で仕えた。

栃木県の足尾銅山から流れ出た鉍毒は、渡良瀬川沿岸一帯を汚染し、人体や農作物に大きな被害を与えていた。特に、明治29年の大洪水による被害は深刻であった。この手紙は、親展で状況を照会したものである。

■ 展示資料一覧

I 第2代県令 白根 多助への手紙			
1	吉田清英 [県権参事] (熊谷県廃県に付知事帰県依頼)	[明治9年] 8月22日	白根家文書 35
2	福地源一郎 [東京日日新聞社] (新聞売込)	[明治] 11月13日	白根家文書 484
3	浜尾新 [東京大学学部総理] (学生就職依頼)	明治11年 9月21日	白根家文書 86
4	川島樸坪 [県学務課長] (時計購入願)	明治12年 11月21日	白根家文書 20
5	松方正義 [内務卿] (仏公使接遇謝礼)	明治14年 2月4日	埼玉県行政文書 明926
6	楫取素彦 [群馬県令] (高崎士族動向)	[明治14年] 8月9日	白根家文書 1
7	小泉寛則 [児玉郡長] (日本鉄道株券募集)	[明治15年] 5月16日	白根家文書 92
8	白根勝二郎宛吉田清英 (県産葡萄霊前へ献呈)	明治17年 9月3日	白根家文書 62
II 第3代県令・知事 吉田 清英への手紙			
9	井上馨 [外務卿] (トリクー仏公使旅行接遇依頼)	明治15年 9月1日	埼玉県行政文書 明926
III 第4代知事 小松原 英太郎への手紙			
10	鈴木敏行 [入間郡長] (養蚕巡覧願)	[明治23年] 5月17日	埼玉県行政文書 明985
11	森山茂 [富山県知事] (富山県知事着任挨拶)	明治23年 8月16日	埼玉県行政文書 明985
12	大塚謙三郎 [内務省土木局長] (河川改修)	[明治23年] 11月6日	埼玉県行政文書 明1772
IV 第6代知事 銀林 綱男への手紙			
13	中井弘 [貴族院議員] (図書斡旋依頼)	[明治26年] 2月22日	埼玉県行政文書 明985
14	富田鏡之助 [東京府知事] (多摩郡管轄換)	[明治26年] 4月	埼玉県行政文書 明985
15	岡田正康 [蕨町長] (蕨停車場道路開通式招待)	[明治26年] 7月8日	埼玉県行政文書 明985
V 第7代知事 千家 尊福への手紙			
16	牧野伸顕 [文部次官] (御大典に付師範学校献上品)	[明治27年] 2月20日	埼玉県行政文書 明985
17	中村元雄 [群馬県知事] (本庄脱線事故)	[明治27年] 6月15日	埼玉県行政文書 明985
18	野村靖 [内務大臣] (晩餐招待)	[明治28年] 12月11日	埼玉県行政文書 明985
19	渡辺千秋 [京都府知事] (遷都千百年記念祭招待)	明治28年 4月5日	埼玉県行政文書 明985
20	徳大寺実則 [内務大臣] (足尾鉍毒事件照会)	明治30年 4月7日	埼玉県行政文書 明3397

■ 凡 例

- この目録は平成13年1月30日から3月25日まで開催する平成12年度第3回収蔵文書展「知事への手紙 明治編」の展示解説書です。
- 展示終了後、展示された資料は、2階の文書閲覧室で見ることができます。

■ 協力者／協力機関

阿部深雪／石岡康子／兼子順／木戸陽子／埼玉県立浦和図書館／佐野久仁子／白根春彦／橋本栄／森田順子／森本祥子／吉本富男／綿貫瑞穂 (五十音順・敬称略)

- 【表紙】 5 第2代県令白根多助への松方正義手紙 (仏公使接遇謝礼)
 9 第3代県令吉田清英への井上馨手紙 (トリクー仏公使旅行接遇依頼)
 【裏表紙】 8 白根勝二郎への吉田清英手紙 (県産葡萄霊前へ献呈)

利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 月曜日／国民の祝日・休日／毎月末日／年末年始／特別整理期間 (春秋各10日以内)

交通案内 JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線：浦和駅下車徒歩12分

JR埼京線：中浦和駅下車徒歩15分

浦和駅より国際興業バス 北浦和駅行(大戸経由)・浦和市内循環(北回り)：県庁裏下車

